

※同時記者発表 高松サンプォート記者クラブ／徳島県政記者クラブ／阿南市政記者クラブ

令和元年7月12日
四国地方整備局
徳島県

『那賀川水系河川整備計画（変更）』を公表します。

- ◆国土交通省四国地方整備局と徳島県は、戦後最大流量を記録した平成26年8月洪水（台風11号）により深刻な浸水被害が発生していること、さらに、近年の頻発する洪水の激化や将来の気候変動の状況等を踏まえ、平成26年8月洪水と同規模（年超過確率1/50規模）の洪水を安全に流下させることを治水目標とした『那賀川水系河川整備計画（変更原案）』を平成31年4月15日に公表しました。
- ◆その後、「第13回 那賀川学識者会議」（平成31年4月16日開催）をはじめ、「住民の意見を聴く会」、「公聴会」、「パブリックコメント」により流域住民の皆様から多様なご意見を頂き、可能な限り反映した『那賀川水系河川整備計画（変更案）』を作成し、「第14回 那賀川学識者会議」（令和元年6月11日開催）で意見をお伺いしました。
- ◆その結果を踏まえ、令和元年6月18日に公表した『那賀川水系河川整備計画（変更案）』に対し、河川法に基づく関係県知事の意見聴取や関係機関との協議が完了し、那賀川水系河川整備計画を令和元年7月12日に変更しましたので、公表します。
- ◆那賀川水系河川整備計画（変更）は、下記ウェブサイトからご確認いただけます。

<http://www.skr.mlit.go.jp/nakagawa/seibikeikaku/rlhenkou/henkou.html>

◆総合的なお問い合わせ

国土交通省 四国地方整備局

河川部 河川計画課 建設専門官 黒田 稔生

TEL (087) 811-8317 (内線3613)

◆整備計画の変更に関するお問い合わせ

◇国管理区間に関すること

国土交通省 四国地方整備局

那賀川河川事務所 副所長 清水 敦司

◎調査課長 青木 朋也

◎主な問い合わせ先

TEL (0884) 22-6562 (内線351)

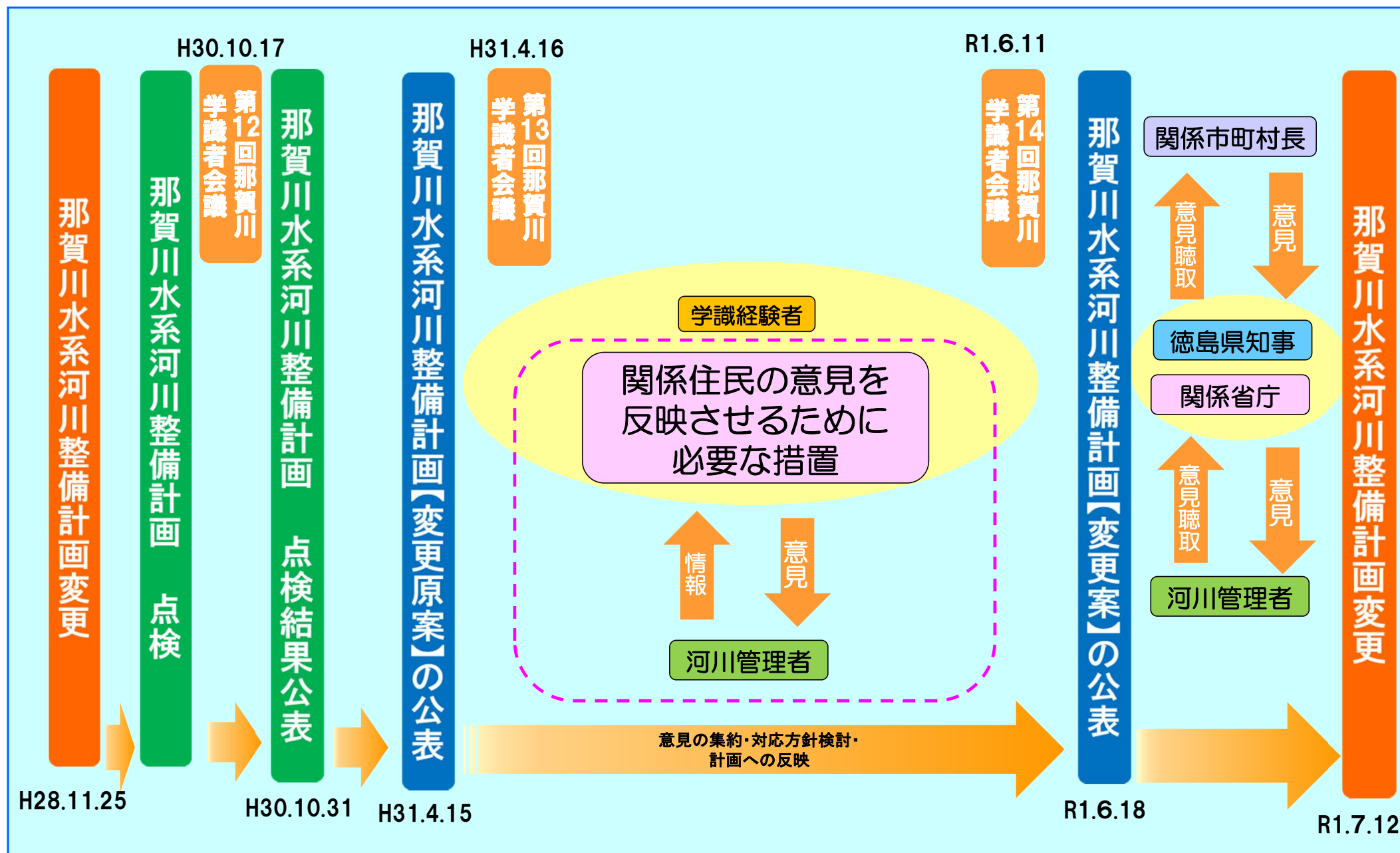
◇県管理区間に関すること

徳島県 県土整備部 河川整備課 課長補佐 香川 忠司

TEL (088) 621-2570

変更までのスケジュール

■那賀川水系河川整備計画の変更等の流れ

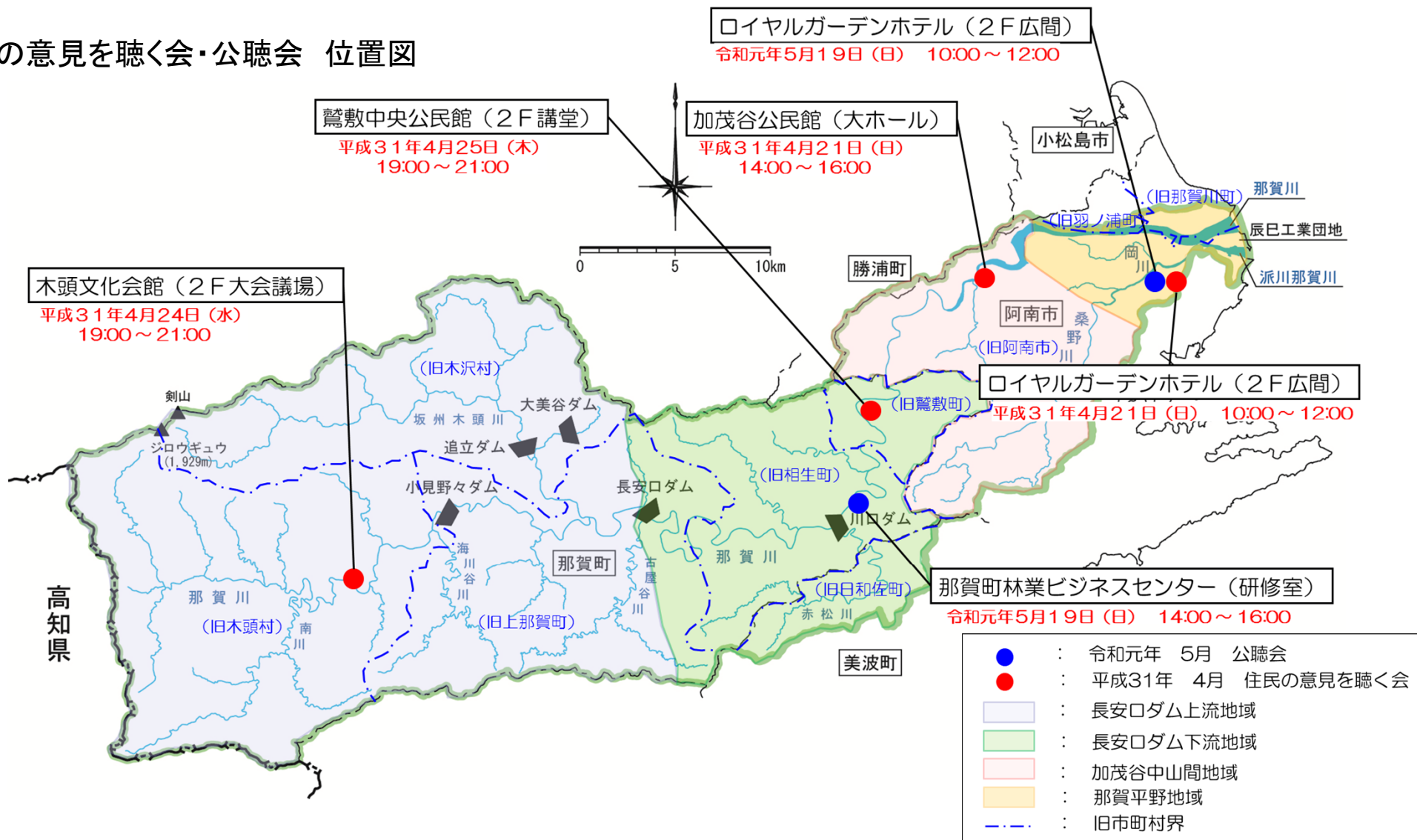


関係住民のご意見を反映させる方法

『那賀川水系河川整備計画（変更）』（以下、変更という）については、変更に対する意見を広く学識経験者及びパブリックコメントや住民の意見を聴く会、那賀川では初めてとなる公聴会を実施し、流域の皆様から多様なご意見等を頂きました。

頂いた意見を可能な限り本文に反映し、変更いたしました。

■ 住民の意見を聴く会・公聴会 位置図



那賀川水系河川整備計画(変更)の概要

【変更のポイント①】

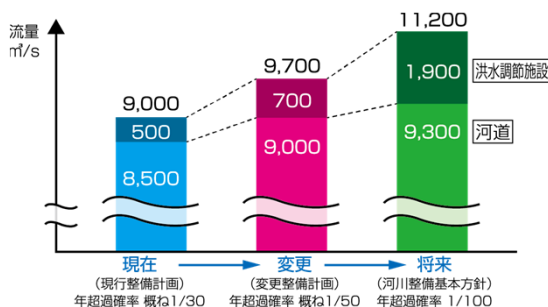
「戦後最大流量規模の洪水を安全に流下させるため目標流量を変更しました！」

今後の河川整備の内容を定める整備計画では、戦後最大を記録した平成26年8月台風11号規模の洪水を安全に流下させるため、年超過確率1/50の治水対策を行います。

なお、整備計画における目標流量は、古庄地点で9,000m³/sから9,700m³/sに上げました。

このうち、洪水調節施設により700m³/sを調節して、9,000m³/sを河道で流せるようにします。

■那賀川(古庄)における治水目標



【変更のポイント②】

「上流域では、ダム再生に向けて調査・検討を行います！」

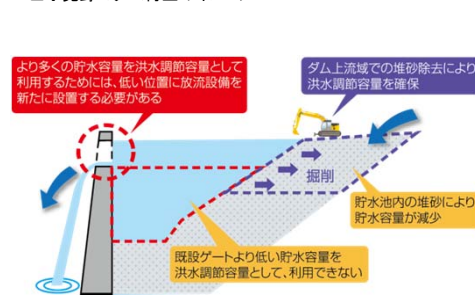
現在、長安ロダムは、洪水調節容量を1,096万m³から1,200万m³に増強するため、ゲートの新設を行っています。

今後、この新しいゲートを最大限に活用するため、予備放流水位(洪水を待ち構える水位)をさらに下げる検討を行い、洪水調節容量を増やします。

また、既設小見野々ダムの上流域では、堆砂除去により貯水容量を増やし、放流設備を新設することで、新たに洪水調節容量を確保します。

なお、既設小見野々ダムを有効活用し、新たに洪水調節機能を確保することについては、施設管理者と協議して各種調査・検討を行います。

■小見野々ダム再生のイメージ

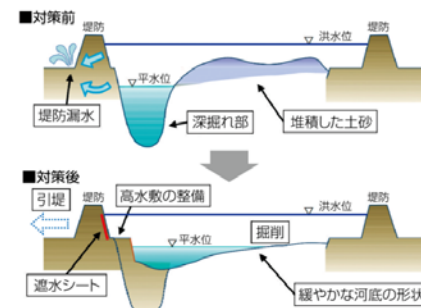


【変更のポイント③】

「下流域では、堤防を強化したうえで、洪水疎通能力を増大します！」

無堤部の築堤を進めるとともに現在の洪水疎通能力を維持するため、洪水流によって堤防が削られたり、漏水によって堤防が崩れないように、河床に堆積した土砂を利用し、高水敷を整備したり、水を透しにくい堤防構造にするなどして堤防を強化します。

現在の洪水疎通能力目標を8,500m³/sから9,000m³/s(古庄地点)に増大させるため、河道掘削などを行うことに加え、吉井堤防の再整備(引堤)の実施に向けて調査・検討を行います。



【変更のポイント④】

「気候変動により激甚化・頻発化する洪水に対応します！」

近年、気候変動により全国各地で施設の能力を上回る洪水が発生し、今後もその頻度が高まることが予想されます。そのため水害を「我がこと」としてとらえ、「施設能力には限界があり、施設では防ぎきれない大洪水は必ず発生するもの」へと意識を変革する必要があります。

そのため、「那賀川水系大規模氾濫減災協議会」を通じて、関係機関等と情報共有や連携を図り、ハード対策とソフト対策を一体的、計画的に推進し、水防災意識社会の再構築等により、「逃げ遅れゼロ」、「社会経済被害の最小化」を目指します。

【変更のポイント⑤】

「砂レキが復活し、清流が流れる川づくりを目指します！」

流域で発生している大規模な土砂災害、ダム堆砂、瀬・淵の消失、河床低下、レキ河原の減少、海岸侵食など、土砂移動及び土砂管理上の課題を解決するため、総合的な土砂管理を推進します。

上流域では、長安ロダム上流に堆積した土砂をダム下流に置土し、洪水の流れによりダム下流に流すことで、瀬・淵が再生し、流れが多様で健全な河川環境を目指します。

下流域では、アユの生息・生育・繁殖に適した瀬・淵環境の自然を再生するなど、多自然川づくりを推進します。

